

熊本洋学校教師「ジェーンズ邸」とは

ジェーンズ邸館 長黒田孔太郎

明治四年から明治九年まで、熊本洋学校の教師として、アメリカから招かれた、L（リロイ）・L（ランシング）・ジェーンズが家族とともに住んだ邸宅です。当時の肥後（熊本）には、西洋建築物を、建てる大工はいませんでした。そこで長崎から大工を招きます。ジェーンズは大工の棟梁を「辰吉」と呼んでいます。ジェーンズ邸建築には大変なお金がかかったと思われれます。熊本はそうまでしてでも、ジェーンズがやってくるのを首を長くして待っていたのです。熊本では最古の洋式建築です。



ジェーンズは、明治維新当時の日本が、外国文化を導入して、近代化を図るために招いた、お雇い外国人と呼ばれる人の一人です。

熊本洋学校は

ジェーンズとは

リロイ・ランシング・ジェーンズの写真を、左に載せました。写真でお分かりのように、元軍人です。アメリカ合衆国の第十六代大統領のリンカーンの時代に起きた南北戦争に参加した人です。一八三七年、三月二七日にアメリカのオハイオ州に生れ、敬虔なプロテスタントの両親に育てられました。子ども時代は、泳ぎと釣りが好きで、兎狩り等に熱中し、乳搾りをしたり、馬を馴らしたり、家畜の世話をしながら大きくなりました。又機械類が好きで屋根裏で掛け時計を見つけて



は、分解するのが大好きでした。

一八五四年、一六歳になった時、父親から勧められた、法律事務所で法律の勉強を始めました。しかし彼の関心は、ワシントンやナポレオン等の活躍にあったのです。

一八五六年、義務的な法律の勉強に見切りをつけた、ジェーンズは、軍人になろうと思ひ、父親を少しづつ説き伏せていきました。

そしてついに、四月に、厳しい試験がある、アメリカで最もハイレベルの「ウエスト・ポイント

現在の県立第一高等学校のある場所、古城（ふるしろ）に開校しました。ジェーンズは徳富蘇峰（とくとみそほう ジャーナリスト）、海老名弾正（えびなんだんじょう 京都同志社総長）、横井時雄（よこいときお 衆議院議員）、横井時敬（よこいときよし 東京農業大学初代学長）等、明治、大正、昭和初期の日本の教育界、宗教界、実業界等をリードする有為な人材を数多く育てました。

ジェーンズは明治九年の一〇月に熊本を去りました。明るる年の明治一〇年、熊本を舞台として始まった、日本人同士最後の戦争、西南戦争の時には、ジェーンズ邸は官軍総督として来熊した、有栖川宮熾仁親王（ありすがわのみやたるひとしんのう）の宿所となりました。この有栖川宮の許可により、官軍、薩摩軍の敵味方の関係なく負傷兵を助ける、救護団体、「博愛社」が設立されます。博愛社は、一〇年後に日本赤十字社となったので、このジェーンズ邸は「日本赤十字発祥の地」とも、呼ばれています。

その後、明治二〇年に県庁移転に伴い南千反畑町に移築します。まずは物産館として使われますが、明治三六年には県立高等女学校の仮校舎として使用されます。又日露戦争のロシア人将校の捕虜収容所にもなりました。戦争が終ると又物産館

陸軍士官学校」の士官候補生として仮入学したのです。ニューヨークから約二時間の郊外にありました。ジェーンズが嬉しかったのは、学ぶ内容が軍事工学だけでなく、物理、化学、天文学、地理学、地質学と様々な勉強ができたので、卒業後は民間でも仕事が出来るようになっていたことだったのです。ウエスト・ポイント陸軍士官学校出身者は道路、運河、鉄道といった分野でも活躍できたのです。仮入学を許可されたジェーンズはその後更に試験を受け、七月に正式に入学を許されたのです。

ジェーンズは一八六一年にこの陸軍士官学校を卒業します。この卒業の前に、リンカーンが大統領になり奴隷解放をめぐって、南北戦争が始まりました。ジェーンズは卒業すると、奴隷開放側、北軍の砲兵隊少尉として、参戦し、最後は砲兵大尉にまで昇進します。途中で、砲兵戦術の教官助手、地理学、歴史学、論理学の助教にも任命されます。南北戦争は北軍の勝利となり、一八六五年に終結します。その後ジェーンズはオレゴン州のステイブンス砦に配属されて、体調を崩してしまいました。また、戦争がないときの、軍人はあまり意味がないと考え、一八六七年、一二月に退役します。



となりました。そして昭和四五年一月に熊本市有形文化財指定、四六年五月には熊本県指定有形文化財となり現在に至っています。

この敷地内に、夏目漱石が熊本時代に三番目に住んでいた住宅（旧大江村・現在の新屋敷町）も、昭和四七年に移築されました。ここには多少図々しい、五高生「股野義郎 またのよろう」君が住むところがないといって書生として住み込みます。朝寝坊のうえにご飯をたくさん食べたり、漱石の弁当をこっそり食べたたりする人です。漱石は『吾輩は猫である』の中に多々良三平（たたらさんぺい）という野蛮な書生を登場させますが、このモデルは股野義郎だといわれています。

一八六九年、結婚していたジェーンズは新しい生活を始めようと、妻、ハリエットと生れたばかりの子どもを連れて、メリーランド州セイント・デニスに引越し、エルク・リッジ農場を買い、農業を始めました。この農場は中程度の大きさで、土地の質もまずまずでした。子どものときから、経験している家畜の飼育や、この農場での農業経験が、熊本へ来てからも大変役に立ちます。この頃までは、熊本に招聘されることなどは、全く頭になかったでしょう。しかし日本は動乱の明治維新期に入っていたのです。そういう時期に肥後は洋学校の先生を探していたのです。

※「事務局便り」 本田憲之助

設立総会が終わると次の集まりは一月で、黒田館長による市民講座です。三月はジェーンズが亡くなった月ですので、記念祭とシンポジウムを計画しています。何れも近づいたらご案内いたします。現在会員は約百名です。力を合わせてジェーンズの顕彰の活動をしていきたいと存じます。これまでに出された文献、残された資料等を整理したり、ホームページを作って連絡しあったりやる事はたくさんあります。是非会員の皆様のご協力をお願いいたします。事務局へご連絡をお待ちしています。